

日本文学ノ旅 in 米国



特集

日
本
文
学
ノ
旅

夏休みも終わり、季節は秋。
学びを深める旅に出ませんか？
今回の特集は「日本文学ノ旅」。
今年の3月から4月の1か月間、
アメリカのプリンストン大学に留学された
澤西祐典さん(人間・環境学研究科博士課程3回生)
に、お話を聞きしました。



特集は裏面へ！

in 米国

京都大学 吉田南総合図書館 (愛称: 逍遙館)

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

Tel : 075 (753) 6524, 6525

Fax : 075 (753) 6896

Email : eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

HP : <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/>Blog : <http://yoshidasouthlib.hatenablog.jp/>

Twitter : @yoshidasouthlib

しょうようかん



HP



Blog

グレート・ブックスと私 第1回「子規になりきる！百万遍句会」

グレート・ブックスの中から自分にとってのこの1冊を選んで紹介する会、「グレート・ブックスと私」。第1回に登場するのは俳句、正岡子規。「借り物句会」もやりますよ。俳句を詠んだことのない方でも参加できる句会です。どなたさまもどうぞお立ち寄りください。

子規になりきる！百万遍句会

入場無料
Admission Free

Get into SHIKI! Hyakumanben Haiku Gathering

日時：2014年10月23日(木) 17:30 - 19:30

場所：人間・環境学研究科棟1F 環on

講師：佐藤文香(俳人)

佐々木幸喜(京都大学アジア研究教育ユニット
[国際交流センター] 特定助教)

書名：正岡子規『正岡子規』

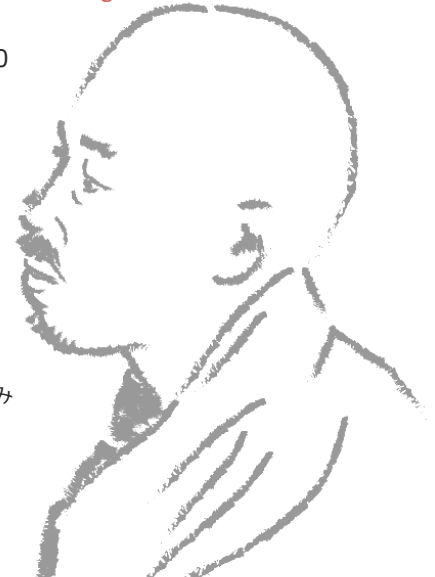
2009年10月、筑摩書房(ちくま日本文学 040)
吉田南 1F グレートブックス 914.6||M||24

申込方法 How To Apply

事前予約優先制です(定員30名)。メールにてお申し込み
ください。定員に達しない場合は当日も参加可能です。

メール：eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

件名を「百万遍句会」とし、氏名、ご所属を
お知らせください。



医学図書館：国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始

国立国会図書館による「図書館向けデジタル化資料送信サービス」が、附属図書館だけでなく、医学図書館でもご利用いただけるようになりました。

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料について、デジタル画像の閲覧と複写ができるサービスです。国立国会図書館デジタルコレクションのうち、「国立国会図書館/図書館送信限定」表示のある資料が対象です。学内の方でしたらどなたでもご利用できるサービスです。どうぞご利用ください。

医学図書館



附属図書館



国立国会図書館



「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の利用方法等は
こちらよりご確認ください。



Follow me! "@yoshidasouthlib"



検索ツール“KU ArticleSearch”がバージョンアップしました！

京都大学が提供している膨大な電子ジャーナル・データベース等の中から、必要な文献をまとめて探せる検索ツール「KU ArticleSearch」がバージョンアップしました！

The screenshot shows the KULINE website interface. At the top, there are navigation links for HOME, 総利用案内, 学習/研究サポート, よくある質問, 図書館・室一覧, 開館カレンダー, and お問い合わせ. Below this is a search bar with the text 'shinya yamanaka' and a search button. The search results show two entries for 'Shinya Yamanaka' from 'NATURE MEDICINE'. A red arrow points to the '論文検索' (Article Search) tab in the top navigation. A yellow callout box with a cat illustration says: '更に使いやすくなった “KU ArticleSearch” をご活用下さい！' (It has become even easier to use, please use "KU ArticleSearch"!).

当館ではこの秋、論文検索ツールの講習会を開催します。ぜひご参加ください！

10月20日(月)-24日(金) 16:30-16:45

15分でナットク！ KULINEから論文検索【KU ArticleSearch 15分講習会】

10月27日(月)-31日(金) 16:30-16:45

15分でシットク！ Web of Scienceから論文検索【Web of Science 15分講習会】

京都大学吉田南総合図書館のブログ「今日も逍遙館」はじめました！

今日も逍遙館

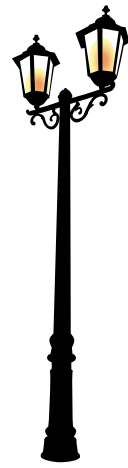
～京都大学吉田南総合図書館のブログ～



アクセスはこちら

2014年7月よりはてなブログをはじめました。吉田南総合図書館(愛称:逍遙館)にまつわる日々の話を、スタッフが気の向くまま紹介するブログです。イベント情報や、おしごと紹介など様々な記事で図書館の魅力をお伝えします！

日本文学ノ旅 in 米国



今回は人間・環境学研究所博士課程3回生の澤西祐典さんに、2014年6月に行ったインタビューをまとめました。澤西さんは「ジョン万プログラム」(註)で、今年の3月から4月の一か月間、アメリカのプリンストン大学に留学されました。彼の研究テーマは、「日本近代文学・芥川龍之介の海外文学受容」。一か月という短い期間にもかかわらず、日本近代文学と外国の関わりについて、様々な発見があった様子でした。作家(註)として、また日本近代文学研究者としての彼に、アメリカは何をもたらしたのでしょうか。

(註)プリンストン大学 東洋学 短期研究型プログラム。参照：京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム <http://www.john-man.jp/kyoto-u.ac.jp/index.html>
(註) 第35回(2011年) すばる文学賞受賞

なぜ、留学をしようと思ったのですか？

指導教員に勧められて、というのが率直な理由です。以前から語学の研修を兼ねて海外留学に行きたいいな

どんなふうに一日を過ごしていたのですか？

渡米中住んでいたところはホテルではなく、ナソークラブ(Nassau Club)というところで、1階はラウンジで2階が宿泊スペースになっていました。ラウンジはジャケットと革靴要着用だったので、なるべく使わないようにしていました。ナソークラブの向かいにもレストランがありましたが、同じようにドレスコードがありました。きっちりした服を持って来ていなかったもので、使えませんでしたね(笑)。それでも、朝は4時に起床して、誰もいないラウンジに、とりあえずカッターシャツと革靴だけ履いて行って、そこでコーヒーを飲みながら(午前)8時まで作業していました。8時ごろになると町のカフェに行つて、授業の時間まで過ごしました。カフェには、いつもきまつて特定の院生さんがいて、彼といつも会つて、挨拶がてら話していました。それから授業を聴講し、人に会つて、お昼を食べてから図書館で夜まで勉強して、夜10時くらいにへとへとになって宿に帰るといった感じでした。

留学先では、どのようなことを研究されたのですか？

現在の研究テーマが「芥川龍之介の作品と海外文学との関わり」で、芥川が当時英語で読んでいた洋書を彼がどのように創作に活かしたのかを研究しています。芥川は日本近代文学の作家の中でも研究が進んでいる作家なのですが、海外文学との関わりについては、基本的に日本語訳がある文献を中心に研究されているため、現時点で日本語訳のない文献については、研究が遅れています。そこをやりたいなど。大事な所の注釈がぼっかり空いているので、その部分を埋めていく感じですね。アメリカでは、このことについて、いろいろ情報収集を心がけました。

毎週水曜日のお昼は、東アジア研究所が開催する「ランチコロケアム(註)」を公聴しました。「ランチコロケアム」とはお昼ご飯と飲み物が出て、それを食べながら、だれか一人、先生だったり、院生だったりの前で発表し、質疑応答と議論がされる場です。僕が聞いた時には、日本の開国直後の蘭学の話をしている人に対して中国文化研究の人が意見を述べて議論をされていました。専門外の分野についても「専門家と対等に議論ができる」ということに本当にびっくりしました。アメリカの大学院は日本の一般的な教育システム(修士2年、博士3年)と違い、博士課程が5年間なんです。その2、3年目に試験があり、自分の決めた主専攻1つ、副専攻2つの計3つの分野で、主要関連文献を各50〜100冊読み、それに関連した問いの中からいくつか選んで48時間かけて論じるという試験が必修であるらしいです。それに向けて一年間勉強をします。この試験を通らないと、博士論文を書く資格が取れない。だから、幅広い領域に通じていて、違う分野の人の発表でも、ある程度は背景を理解していて、議論ができる。日本では、乱暴な言い方をすれば修士論文が通ったら博士課程に行けてしまうのに・・・カルチャーショックでした。

学生にとつて、この場合は、発表力を鍛え、また他の先生や学生がどんな研究をしているのかを知ることが出来る場になっていました。コロケアムを開催することで、研究科全体で一人ひとりを鍛えていこうとしているんだと思いました。

話がまた逸れますが、このコロケアムは、その場にいる誰もが議論に参加できる形式をとっているのですが、見ていて僕が思ったのは、人間・環境学研究所(が)目指している姿はこれなんじゃないのか?という

こと。いろんな知識の人達が意見を交流し、相手に自分達の見地からフィードバックしていくというスタイルが人環の目指していることで、それがここ(ランチコロケアム)にあるのではないかと思います。

ちなみに、コロケアムでの発表者は、内部の人間だけでなく、外部からゲストを呼んだりもしていたようでした。面白そうなテーマを発表してくれそうな人を、大学の外(海外も含めて)から引っ張ってくるようです。お昼休みの1時間半で会を終わらせようとしていましたが、質疑応答の時間が足りなくなるほど皆さん話していました。

ランチコロケアムの様子
(ランチを食べながら、発表者のプレゼンを聴いている)



それから毎週月曜日の夕方は、午後6時半から8時にかけて「日本語テール」という、日本語学習をしている学生達が集まって日本語を喋りながらご飯を食べる会に参加していました。渡米前に現地にいる日本語教育の先生から「授業を」手伝って」と連絡があったのがきっかけです。日本語教育の先生がコイデイナータをしていて、日本語だけを喋る時間をつくって、日本語を使えるようにという趣旨で会をひらいていらっしやいました。

参加者は学部生の方が殆どでした。「えー」と思ったのは、学生はテールが終わると、そのままだから残ることなく「宿題あるからー」と皆さつと帰ってしまったこと。こちらとしては「飲みに行こうよ」と思っていたのに皆帰っちゃって「すごく真面目なんだと伝わりました。なので僕もそのまま図書館に行っていました(笑)。

他には、日本の文化を研究している学生のインタビューに協力したり、自分の研究分野について日本語で授業をしたりしました。

どのような授業をされたのですか？

授業では、芥川の「羅生門」について、日本の高校ではどういった位置づけなのかや、下人の行為の是非の他にこんな読解ができるんだよという話をしました。事前に羅生門のテキストを読んで、こちらで立てた問いについて考えて来てもらい、その問いを授業で取り上げながらテキストの理解を深めていく形式で行い

ましたが、日本の学生と違って反応（レスポンスがある）が良かったです。例えば学生に、「なぜ下人が一人で羅生門の下にいたのか」「当時の京都の状況は？」等を聞くと、視線を振るだけで、手を挙げてくれる。答えもぼんやりとした感じじゃなくて、本文に基づきながら論理的にしっかりと答えてくれるのでありがたかったです。教えている側としても、わかってきてるなど手ごたえを感じられるので、安心して授業を進められました。

授業では4回生相当（日本語5年生）のクラスで教えたのですが、皆優秀でした。ずっと普通に日本語で喋っているのですが、授業をしていて日本語が理解できているのがわかりましたし、問いに対する答えも日本語で、それもタイムリーに喋ってくれます。日本の外国語教育との違いを感じました。大学に入って、4回生になる頃には、学術的な会話の入り口くらいまでにはみんな到達していて、本当に驚きました。現地の学



生の前で授業をする体験は、僕も大いに刺激を受けました。

興味深かったのは、もともと日本出身の学生がいて、（彼はずっとハワイで暮らしていたようですが）授業後に彼から昔日本の高校で受けた授業を思い出したと言われたことです。話を聞くと、授業の内容というより、僕の授業スタイルがそう思わせたようです。プリンストン大学の場合、先生が一方的に喋っているか、先生は一切話さず、学生同士が議論をするかの2パターンのみならず、先生が話をふって主導権を握りながら学生をひっぱっていく授業スタイルはとて珍らしい。彼から言わせるとても日本らしい授業スタイルだと感じたそうです。彼の反応は、僕にとつて全然思いもよらないレスポンスでした。教案学習指導案を練っている時には何も考えずそういう授業を組み立てていきました。彼の指摘でその指導法が日本という文化圏に由来するものなのだと気づかされました。



では、休日の過ごし方は？

週末になると、フィラデルフィアやミシガン大学に出かけて、アジアスタディーズ^(*)の学会や漱石の多様性^(**) [Soseki's Diversity] の学会に参加したりしていました。また、旅行も兼ねてボストンやニューヨークに行きました。作家のホーソーンの生誕地がボストンの近くにあり、お墓参りをしたり、ニューヨークでは美術館やビレッジバンガード（老舗のJazz Club）に行ったり、ミュージカル鑑賞等を楽しみました。個人的にはボストンの旅が一番楽しかったです。ホーソーンの聖地巡りも堪能できましたし、シーフードがとても美味しかったです。

留学をしたいと思っている人、または同じ研究分野の人へのメッセージを一言ください。

文化は異文化との対話のなかで発見され、発展してきました。そのソ



(上)日本語クラスでの授業風景（午前のクラス）

(中)日本語クラスでの授業風景2（午後のクラス）

(下)プリンストン大学

*1. Colloquium Lunch Talk：ランチコロキウムとも。

(参考)<https://www.math.princeton.edu/graduate>

*2. アジア研究協会主催の学会。通称AAS。

<http://www.asian-studies.org/>

*3. Diversity in Soseki conference. 「漱石の多様性」会議

(2014.4.18-20 ミシガン大学)

<http://www.lsa.umich.edu/asian/events/sosekisdiversity>

トなる文化圏からの視点を書物から学ぶこともできますが、やはり異なる文化を実際に体感することで、自分の中により多くの視点が根付き、より多くの読者を相手にした研究が可能になるように思います。

日本近代文学、ひいては東アジア文化研究において、英語圏へ留学することは一見無意味でありナンセンスなことと思えますが、同じ研究対象をパラダイムが異なる場所で見つめ直すことは有意義な体験です。機会があれば、ぜひそれを掴みとって、自身の糧にしてほしいです。

以上の記事は「抜粋版」であり、紙面に掲載した以外にもたくさんお話を伺うことができました。紙面に載せられなかった記事に関しては、「日本文学の旅ミ米米」(完全版)として、当館ブログに掲載予定です。ご期待ください！

開館日程表

9:00-20:00	10:00-15:00
休館(日・祝日)	定例休館日

10月

8日(水) **夏季特別貸出返却期限日**

20日(月)-24日(金) 16:30-16:45
 KU ArticleSearch 15分講習会
 27日(月)-31日(金) 16:30-16:45
 Web of Science 15分講習会

10						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月

蔵書のタネ、募集します。
 REQUEST CAMPAIGN
 10月27日(月)START★

21日(金)-24日(月)
 第56回 京都大学11月祭

11						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12月28日-1月5日: 冬季休館

12						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			



「環on(わおん)」(人環棟1F)
 開室: 平日9:00-17:00
 本館の定例休館日も開室
 休室: 土日祝日ほか
 (本館の休館日と同じ)